



SILENT FILM RENAISSANCE

映画生誕100年 —サイレント・フィルム黄金時代の幻の名画を連続上映

サイレント・ルネサンス

映画と音楽の新たな出会いに向けて

1994年12月22日(木) - 27日(火) / 東京・有楽町朝日ホール



fiaf
100 cinema

日本を代表するミュージシャンが生演奏！

坂本龍一

12月22日(木)

早川雪洲プログラム

「チート」

「犠牲」

大友良英

12月24日(土)

日本映画プログラム

「突貫小僧」「君と別れて」

12月25日(日) ▶ 「鉄路の白薔薇」

12月26日(月) ▶ 「風」

テトラエーダー

12月23日(金・祝) ▶ 「除夜の悲劇」

12月23日(金・祝) ▶ 「群衆」

中川昌巳

12月27日(火) ▶ 「裁かるゝジャンヌ」

会期/会場
入場料

1994年12月22日(木) ~ 27日(火) / 東京・有楽町朝日ホール

早川雪洲プログラムのみ5000円(自由席)

その他は1プログラムにつき3000円(自由席)

通し券(全プログラム・22日も含む) 1万5000円

前売券はチケットぴあ(03-5237-9999)

チケット・セゾン(03-5990-9999)より発売



サイレント・ルネサンス

SILENT FILM RENAISSANCE

100年前、映像と音楽が出逢い、映画は生まれた

1895年12月28日。パリ、キャプシヌ大通り14番地「グラン・カフェ」の地下（インドの間）。ここで、かつて世界のどこにもなかった新しい見世物が公開された。「シネマトグラフ」。つまり、映画である。この、今から約100年前のリュミエール兄弟による世界最初の商業上映では、一人のピアニストが映画に合わせて演奏。35人の観客とともに新たな芸術誕生の瞬間を共有した。音楽と映画の関係は、このように、深い。サイレント映画は、現在、音のない状態で公開されることがほとんどである。しかし、公開当時、ピアノやオーケストラの演奏などが必ずつけられていたサイレント映画の真の魔力は、

無声状態では決して伝わらない。音楽、それも、既成のものではなく、新しい曲、かつ生演奏によってサイレント映画の素晴らしいしさをよみがえらせようという試み。この純粹に芸術的、かつ、創造的な実験に、映画生誕100年を目前にした今年、坂本龍一を始めとする、現代日本を代表するアーティストたちが挑む。「サイレント・ルネサンス」。映像がどのようにアーティストの創造力を喚起し、どのような音楽作品が生まれるか。また、音楽の力によっていかに過去の映像が生きてよみがえるか。そして、あなた自身が、どう、刺激されるか。あなたにもこの実験に参加していただきたい。

早川雪洲



小津安二郎



セルシ・B・デミル



成瀬巳喜男



キング・ヴィダー

上映日時・出演者	タイトル・上映時間	監督	解説
12/22 木 坂本龍一 Ryuichi Sakamoto	1. アメリカ女性を魅了した早川雪洲の危険な魅力	セルシ・B・デミル Cecil B. DeMille	新大陸で模索した異端を主題とした映画の一つだが、その生々しい表現によって、アメリカではスキャンダラスな話題が独り歩きした。早川雪洲の妖しい魅力がアメリカじゅうの女性の心をとらえた作品。日本が第一次大戦に参戦した後、字幕は変更られ、雪洲の役は日本人の設定からビルマ人に変更された。製作当時、日本では公開されなかった。
	チート The Cheat 1915年/アメリカ/59min.	ロジェ・リオン Roger Lion	早川雪洲はエキゾチックなマスクによって、フランスで非常に人気があった。これは彼がフランスに招かれて撮った作品の一つである。内容は、「チート」の裏返して、雪洲は純真な心を持った日本人を演ずる。サムライの魂を持つ人物として日本人を描くという類型的新見方など、現代的な視点によっても興味深い作品である。

12/23 金・祝 テトラエーダー Tetraeder	14:00	日本で発見されたドイツ表現主義の知られざる傑作 除夜の悲劇 Sylvester 1923年/ドイツ/66min.	ルプ・ピック Lupu Pick	ドイツ室内劇映画。ドイツ表現主義の傑作でありながら、この映画のプリントはヨーロッパにおいても不完全なものしか存在せず、それすら公開される機会ほとんどなかった。だが数年前に日本でほぼ完全なプリントが発見され、今回はそれが上映される。老母と嫁の間に板ばさみになった男が、大晦日の夜に自殺するまでの数時間を描いた作品。92年ポルデノーネ無声映画祭(伊)、93年テレライト映画祭(米)、94年ベルリン国際映画祭(独)にフィルムセンターから出品され、絶賛を浴びた。
12/23 金・祝 テトラエーダー Tetraeder	18:30	日本未輸入のアメリカ映画史上の名作―庶民の哀歌 群衆 The Crowd 1928年/アメリカ/103min.	キング・ヴィダー King Vidor	この世に祝福されて生を受け、親に期待されて、将来の成功を夢見ながら育っていく若者。しかし氣付いてみたら、彼は群衆の中の無名の一人にしかすぎない。この映画は、そうした若者を主人公にして、いわゆる「サラリーマンの悲哀」を描いている。ドイツ映画のスタイルを受けた一群のアメリカ映画の中の代表的な作品である。1989年のナショナル・フィルム・レジストリー（アメリカ映画の「国宝」を選定する制度）で25本のうちの1本に選ばれた。日本未輸入。

12/24 土 大友良英 他 Yoshihide Otomo	16:00	1. 発見された世界のオズの映画の幻のコメディ 突貫小僧 A Straightforward Boy 1929年/日本/17min.	小津安二郎 Yasujiro Ozu	世界のオズのこの映画はオリジナルの形で失われてしまっているが、かつて家庭での鑑賞用に販売された9.5ミリ・フィルムに姿を残す。それが35ミリ・プリントに復元された。松竹蒲田映画の子役として有名な突貫小僧が、大人をさんざん目にあわせるという短編喜劇。
		2. 世界が拍手した「第四の巨匠」ナルセの叙情 君と別れて Apart from You 1933年/日本/74min.	成瀬巳喜男 Mikio Naruse	世界が拍手した「第四の巨匠」ナルセの叙情。芸者の母と思春期の一人息子、それに若い芸者の悲しい自己犠牲という典型的な新派の主題をもった、松竹時代のメロドラマ。この監督の他の作品と同様、かなり暗い主題が扱われているが、松竹の喜劇にあるようなギャグの使用や主演俳優たちのみずみずしさが暗さから救い、新鮮な魅力を持った作品にしている。

12/25 日 大友良英 他 Yoshihide Otomo	16:00	「ナポレオン」と並ぶガンスの視覚交響楽 鉄路の白薔薇 La Roue 1923年/フランス/212min.	アベル・ガンス Abel Gance	二部構成からなるフランス映画芸術が生んだ超大作。アベル・ガンス監督はこの映画の準備に5年以上の歳月をかけ、2年の撮影期間を経てこの叙事詩的作品を完成させた。シジフォスの神話をモチーフにして、機関車の運転手の悲劇的な運命が描かれる。その大胆な映像構成によって、当時この作品は前衛芸術家や知識人たちからも注目された。「ナポレオン」と並ぶガンスの視覚交響楽。
--------------------------------------	-------	---	-----------------------	--

12/26 月 大友良英 他 Yoshihide Otomo	18:30	ハリウッドで開花した北欧の才能 風 The Wind 1928年/アメリカ/88min.	ヴィクトル・シェーストリーム Victor Sjöström	スウェーデン映画界の巨匠、ヴィクトル・シェーストリーム監督がアメリカで撮った傑作。サイレント映画のファーストレディー、リリアン・ギッシュ扮する南部の娘が、絶えず嵐の吹いているテキサスの荒れ果てた土地にやってきて生活を始める。彼女を脅かす砂嵐は、逃れられない運命の象徴として描かれる。隔離された家のなかに住む人々に対して嵐が果たす劇的な役割が強調されている。
--------------------------------------	-------	--	-----------------------------------	--

12/27 火 中川昌巳 Masami Nakagawa (ゲスト・高田みどり)	18:30	映画史上の金字塔、ドライヤー芸術の真骨頂 裁かるゝジャンヌ La Passion de Jeanne d'Arc 1927年/フランス/94min.	カール・テオドア・ドライヤー Carl Theodor Dreyer	デンマークの巨匠、ドライヤーがフランスで作ったこの映画は、通常の映画とはかなり異なった形を持っている。人物に非常に接近した映像が連続し、ジャンヌ・ダルクの苦悩に満ちた顔がスクリーン一杯に広がる。1920年代の最も大胆な表現形式の実験を行った作品であり映画史上の金字塔。1980年代に見つかった完全オリジナル版による日本初上映。
---	-------	---	---------------------------------------	---

※開場は開演の30分前です。※全作品字幕つき。※なお、スケジュールに記載した上映時間(分)は、実際の長さとは若干、異なることがあります。



チート



除夜の悲劇



突貫小僧



君と別れて



鉄路の白薔薇



裁かるゝジャンヌ

音楽担当・プロフィール

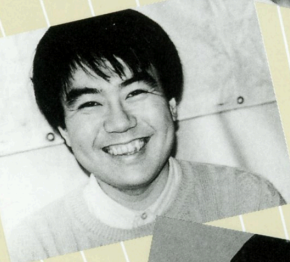
坂本龍一



川手鷹彦



中川俊郎



松原勝也



大友良英



中川昌巳



坂本龍一 作曲家

1952年生まれ。1970年、東京芸術大学入学。在学中から大滝詠一、大貫妙子、山下達郎等のセッションに参加。1976年、同大修士課程修了。「教授」のニックネームで呼ばれる。1978年、ファーストアルバム「千のナイフ」をリリース。このレコーディングを機に高橋幸宏、細野晴臣と共にYMOを結成。アルバム「イエロー・マジック・オーケストラ」を発表。ワールドツアーを精力的にこなす。YMOは1983年に解散。その後ソロ活動を続け、1990年からはニューヨークに活動拠点を置く。1993年には「YMO再生コンサート」を東京ドームで開催。1994年6月にはソロのニューアルバム「SWEET REVENGE」を発表。10月からワールド・ツアー開始。

映画に関する活動も多く、1983年の「戦場のメリークリスマス」に出演及び音楽を担当、1988年にリリースされた「ラスト・エンペラー」では、ゴールデン・グローブ賞最優秀作曲賞、アカデミー賞オリジナル作曲賞、グラミー賞映画・テレビ音楽賞など、数々の賞を受賞。他に「シェルタリング・スカイ」、「嵐ヶ丘」、「リトル・ブッダ」などでも国際的評価を受けている。

TETRAEDER (テトラエーダー)

メンバー

川手鷹彦/1957年生まれ。演出家・俳優・言語セラピスト。80年代より欧州ドイツ語圏で活躍。

中川俊郎/1958年生まれ。作曲家。現代音楽作曲を中心に教会のパイプオルガン演奏からCM作編曲まで精力的に活動。

松原勝也/1963年生まれ。即興のできる稀少のクラシック・ヴァイオリニスト。豊かな音楽表現によって古典的・正統的なコンサート活動はもとより、他の芸術分野との交流を行ってきた。

ギリシア語源で四角錐・(正)四面体を表し、熱を象徴するという「テトラエーダー」を名前にもつこのグループは、1993年の「松原勝也アドヴァンス・リサイタル」のリハーサルにおいて初めて行われた三者によるセッションを機会に、新しい芸術の可能性を探るため結成された。定期的の中川の練習室(スタジオ)で音楽と言葉による集中的な実験を行っている。音の響きを熱に変容させつつ、未知の世界との交流を試みている。

大友良英 ターンテーブル

1959年生まれ。自己のユニット、GROUND=ZEROを中心にコンサート、作曲、映画のサウンドトラックとジャンルにとらわれない活動を展開。この2年間の主な活動は、'93 メールズ・ニュー・ジャズ・フェス(ドイツ)にGROUND=ZEROで出演のほか、ロススキルダ・ロック・フェス(デンマーク)、ミドルブルグ・ミュージック・フェス(オランダ)、香港インディペンデント・フェスティバル(香港)、シドニー・インターナショナル・ジャズ・フェス(オーストラリア)等々に出演。映画では「青い胤」(田荘監督、中国映画)等を手がける。サンプリングをテーマに形にとらわれない活動とパワフルなパフォーマンスであらゆる音をメレティング・ポットに流し込み、複合的アイデンティティの確立を目指す。近作CDは「We insist?」(香港 Sound Factory)、「GROUND=ZERO」(日本 God Mountain)、「The night before the death the Sampling Virus」(オーストラリア Extreme)。今回は、6人のユニット「モスキート・ペーパー」を率いて参加。

中川昌巳(昌三) フルート

1947年生まれ。中学よりフルートを、林リリ子氏に師事。東京芸術大学附属音楽高校及び同大学卒業。フランスのラ・ロシェル現代音楽祭出演や、メキシコ・シティーでのリサイタル等、クラシックから現代音楽までの広いレパートリーをもつ。1977年、パン・ムジック現代音楽国際コンクール第2位入賞。同年、吉原すみれ、木村茉莉らとグループ「アンサンブル・ヴァン・ドリアン」を結成、グループとして第1回中島健蔵賞を受賞。「現音展」「Music Today」「インターリンクフェスティバル」など数多く出演。93年9月には、日本で初めて共通曲目を含むクラシック編とジャズ編2枚の「クロス・ウィンド/デジタル・バード&イン・ア・センチメンタル・ムード」を発表。なお、クラシック、現代音楽では昌巳、ジャズ、ポピュラーのような即興音楽では昌三、とジャンルにより名前を使い分けている。現在、東京芸術大学フルート科講師。今回は、パーカッションの高田みどりと共演。